

広報

# おまず

2022

# 2

No.205

もり  
(特集) 豊かで美しい森林を育むために



も り

## (特集) 豊かで美しい森林を育むために

大洲市の森林面積は、31,515haで、市の面積の約7割が森林です。このうち約6割（18,469ha）を人工林が占めています。人工林の面積は、東京ドームの面積で換算すると約3,950個分の広さになります。

肱川流域は、昔から林業が盛んな地域であり、明治時代、<sup>えご</sup>江湖の港（長浜）は、肱川の上流から<sup>いかだ</sup>筏流しによって運ばれてきた木材が数多く集積され、和歌山の新宮や秋田の能代に並ぶ日本有数の木材集積地でした。

また、森林は水を育み、地球温暖化の防止や山地災害の防止など、私たちの生活に多くの恩恵を与えてくれます。一方で、苗木が木材として利用できる木に成長するまで40年以上かかる林業は、担い手不足や森林の適正な管理が喫緊の課題になっています。

今回の特集は、林業の現状や、令和3年に新たに就業したフォレストワーカーに同行して取材した間伐の現場と未来を見据えた林業の取組についてご紹介します。

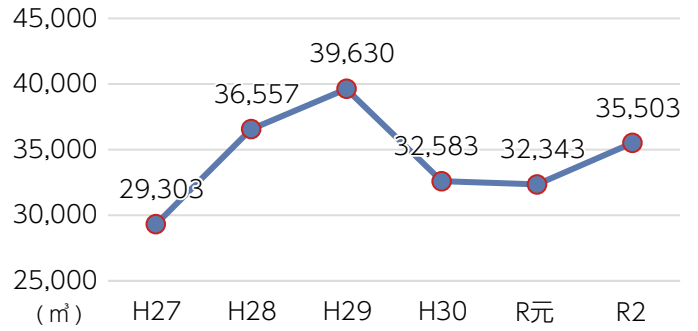
# 大洲市における林産物の状況

## 【民有林素材生産量】

愛媛県内の市町別素材生産量（令和2年）

- ①久万高原町 188,173m<sup>3</sup> (41%)
- ②内子町 52,380m<sup>3</sup> (11%)
- ③西予市 48,581m<sup>3</sup> (11%)
- ④大洲市 35,503m<sup>3</sup> (8%)

(出典) 愛媛県木材需給関係資料

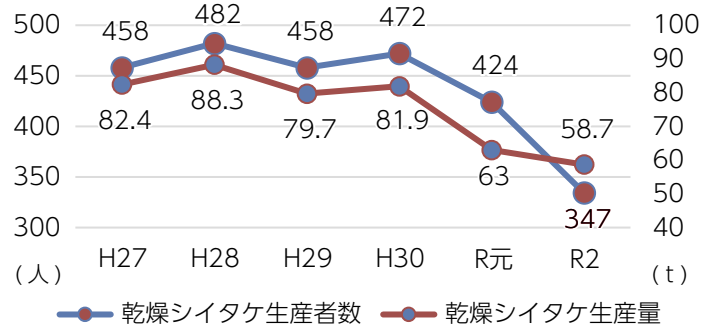


## 【乾燥シイタケの生産量】

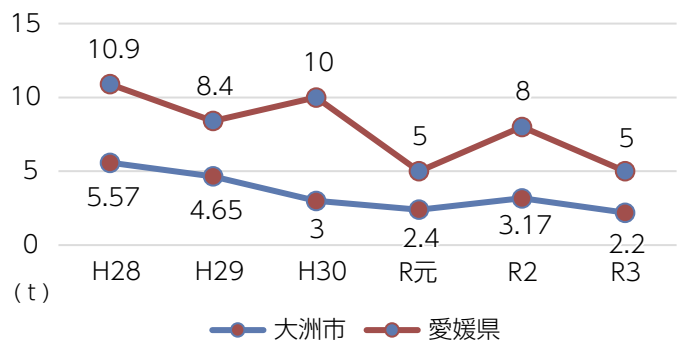
愛媛県内の市町別乾燥シイタケ生産量（令和2年）

- ①大洲市 58,651kg (49%)
- ②内子町 28,911kg (24%)
- ③西予市 9,247kg (8%)
- ④伊予市 6,831kg (6%)

(出典) 特用林産物生産統計調査資料



## 【乾燥タケノコの生産量】



(出典) 愛媛県森林組合連合会調査資料

## 林業の仕組み（川上から川下まで）

木材の生産から加工、利用までの流通体制のことを林業用語で「川上から川下まで」と言います。

川上では、自伐林家や森林組合などが木を植えて・育てて・収穫するまでを行い、川中では、製材業者が柱や梁に加工します。そして川下では、建築業者が住宅を建設するなど木材を消費します。

このような育林から木材産業までのサプライチェーン（生産から消費されるまでの一連の流れ）を効率的につなぐことで、川上に還元していく循環型林業を実践することが、林業の活性化につながります。



①



②



### 【伐採から搬出するまでの作業】

機械を使用した安全で効率的な体制で木材生産を行っています。

- ①はじめに重機（バックホウ）を用いて木材を運ぶ作業道を開設します。
- ②その際、路網が崩れることを防ぐために、木材を使って横断溝を設置して雨水処理をしておきます。
- ③林内の間伐木をチェーンソーで伐採します。



③

- ④伐採した木は、重機（グラップル）で引き上げます。
- ⑤プロセッサで枝を払います。
- ⑥続いて装備されたチェーンソーで木材の長さを揃えます。
- ⑦トラックが入り込めない不整地や軟弱地でも走行できるフォワーダで運搬します。
- ⑧山土場に集められた木材をトラックに積み込み、搬出します。
- ⑨木材市場に運ばれた木材は、規格ごとに整理し、販売されます。



**【間伐作業の必要性】**

森林が持っている水源涵養<sup>かんよう</sup>や防災・保健休養などの公益的機能を維持して、森林を適正に管理していくためには、間伐作業が必要になります。

間伐は、樹木の一部を伐採し、残った木の成長を促す作業です。間伐を行うと光が地表に届くようになるので、地表の植生が育ち、残った木の成長が促されます。幹も太く成長するので、風や雪にも折れにくくなり、木材としての価値も高まります。

**間伐作業前のヒノキ林**



**間伐作業後のヒノキ林**



もり  
森林を未来へつなぐ人  
～フォレストワーカーの新規就業者～



K L C株式会社 (令和3年4月就職)  
あまね  
青木 周 さん

私は福岡県の出身で、以前から自然を相手にする一次産業に興味がありました。なかでも林業に携わりたいと思い、九州を飛び出し、昨年4月大洲市に引っ越しました。

就職したK L C株式会社では、主に森林（スギ・ヒノキ）の間伐および木材搬出、高性能林業機械で作業を行うための作業道開設を行っています。また、民家や住宅街の中で邪魔になっている支障木の伐採も行っています。

自然の中で仕事をするので山の傾斜や地面の状態、天候に大きく左右されることもありますが、自分たちが整備した山に光が差し込み、隣の山まで見渡せるようになった時に達成感を得られ、やりがいを感じています。そしてその場所に針葉樹以外の広葉樹が生い茂り、光が差し込むことで森が元気になっていくことを肌身で感じられるのがフォレストワーカーの魅力です。就業する前は、人力での作業が多いと考えていた林業ですが、実際は機械の作業が主になっていて、人力作業は、機械作業の隙間を埋めるようになっていることに驚きました。就業後は、1本の木を伐倒するのに対しても足場や退路の確認、チェーンソーの目立てやエンジン点検など、安全に仕事をするために伐倒前に行う作業の大切さを学びました。

今は、バックホウやフォワーダなど重機を操縦する資格を持っていないためチェーンソーで伐倒のみを行っていますが、いつか資格を取得して林業作業のすべてをできるようにになりたいです。そして全国で過去に起こった災害事例から何が原因でどのように対策すればよいかを学び、災害をおこさない森林づくりを続けていきたいと思っています。



### 大洲市林業就業者支援給付金給付事業

大洲市内の認定林業事業体に就業（常時雇用）された人に対し、事業体を通じて最大131万円の就業支援金・新生活支援金を給付する制度があります。

#### ▷要件

令和2年4月1日以降に大洲市へ転入届を提出した50歳未満（雇用年度末日）の人で、生活費の確保を目的とした国の補助金等の交付を受けていない人

#### ▷給付額

- (1)就業支援金：就業準備金等（34万3000円）  
+ 移転料（上限28万7000円）
- (2)新生活支援金：新規雇用から6カ月後（68万円）

#### 【問い合わせ先】

農林水産課林業振興係  
☎0893(24)1727



市ホームページ

# もり 森林と木に親しむ 未来に向けた活動

## 森林環境譲与税を活用した木育事業 誕生祝い品「ながもくほいくげ た長木保育下駄」の贈呈

大洲市では、初めての木との出会いの中で、足元から木の温もりを感じ取ってもらい、木と触れ合う心を育み、森林や林業に親しむ契機にさせていただくために、令和3年4月以降に生まれたみなさんへの誕生祝い品として「長木保育下駄」を贈呈する取組を始めました。

保健センターが実施する10カ月育児相談の際にお渡しするようになります。

### 【長木保育下駄の特徴】

足触りの良い白木仕上げにこだわり、幅の広い鼻緒を使うことで窮屈感が少なく、足によく馴染むため、長時間履いても疲れにくい下駄に仕上がっています。また、ヒノキの間伐材を使用することで、環境問題にも配慮した商品です。



大洲ええモンセレクション認定品

ながもくほいくげ た  
長木保育下駄



※大洲市産材のヒノキを使用

※下駄の表面に名前を入れたオンリーワンの商品

## 保育所で木工教室を開催

12月16日(木)、喜多保育所で木工教室が開催されました。この教室は、木工体験を通じて、子供たちに森林に親しむ心を養ってもらい、自然や木材に対する理解と関心を深めてもらうために愛媛県が主催したものです。園児たちは、肱川流域林業振興課の職員から森の話を聞いた後、丸太の薄切りに顔を描いたり、どんぐりや松ぼっくりを使ったクリスマス飾りなど、それぞれ創造力豊かな作品を制作しました。



## 大洲農業高等学校の林業実習

12月22日(木)、大洲農業高等学校1年生約30人を対象とした林業実習が開催されました。

林業実習は、森林組合や林業事業者(KLC株式会社)の職員による講義や機械操作の体験を通じて、林業の仕事や森林への理解関心を高めてもらい、次世代を担う人材の確保・育成を図ることを目的に愛媛県が実施している取組です。生徒たちは、大洲市平野町の山林でプロセッサ・グラップル・フォワーダ、ドローンなどの作業を体験しました。



## SDGs (持続可能な開発目標) に貢献する林業

大洲市の林業は、肱川を利用したいかだ筏流しによって発展したことから、かつては「肱川林業」と呼ばれ、長浜港へ運ばれる材は、量が多いことから西日本の木材価格は長浜が決めると言われた時代もあり、木材生産と加工が盛んな地域となっています。

森林は、私たちの身近に豊富に存在し、木材資源の循環利用との関わりにおいてSDGsにも貢献しています。人や環境にやさしい木材を私たちの生活空間に取り入れていくことが、豊かな森林を未来に残していくことにつながります。



筏流し (大正年代) 出典:大洲市誌写真版